

(様式4)

令和7年3月26日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立砺波工業高等学校
校長 増岡友策

令和6年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

重点1 (学習活動)

通常の授業期間では、毎日学習する生徒の割合は1年生以外は目標の70%を超えることができなかった。しかし、1年生の基礎力診断テストでは、教科によるばらつきはあるが基礎学力を向上させた生徒が増加した。朝学習では、基礎的なワークや資格取得に向けた学習など、自主的な学習習慣が定着してきている。

資格検定の一人当たりの受検回数は、学科による増減はあるがほぼ昨年並みであった。例年ほぼ全員が受検する検定では、合格率が上昇している。また、難しい資格・検定に挑戦する生徒が増加した。

重点2 (学校生活)

面接週間を設け、クラス担任が各クラスの全生徒との面談を実施した。また、生活習慣アンケートやQ Uアンケート等を実施することで、生徒の実態把握・理解に努め、問題を抱える生徒の発見・予防・対応に取り組んだ。長期欠席傾向の生徒に対してはケース会議を行い、教員間での情報の共有と対応について会議で共通理解を図った。

スタントマンによる実演を交えた交通安全教室を実施し、交通事故防止に向けた取り組みを行った。

重点3 (進路支援)

就職希望者83名全員が内定。進学希望者41名全員の進学先が決定している。卒業予定者124名全員の進路が決定しており、目標は達成できた。

1年次から進路希望を取り、工場や学校見学、進路ガイダンス、インターンシップを通して進路先を知り、3年次で進路を決定するまでの流れができていく。

就職希望者には一人2社以上の見学を勧め、進路のミスマッチの防止に努めた。進学希望者に向けて国数英物理の補習や個別添削指導を実施し、進学後も見据えた指導を行った。

重点4 (特別活動)

体育大会では、応援練習活動期間を増やしたり、体育大会前日の活動時間を半日から1日にすることで、各係の準備や団別応援練習、団体競技練習などに十分な時間をとれるようにした。

鷹工展では、生徒会が中心に計画・運営を行うこれまでの伝統が受け継がれており、各催し物で、生徒一人ひとりが自分の役割を担い、主体的に活動する生徒が多かった。

アンケート結果では「自発的」が80%を大きく上回った。「満足」は鷹工展でわずかに90%を下回ったが、達成したと言える。

7 次年度へ向けての課題と方策

- ・家庭での学習習慣を定着させ、学校の授業内容の理解をより深める工夫が必要である。
- ・ICT機器の効果的な活用による、自宅学習や各科の実習、課題や朝学習への応用を図る。
- ・資格取得により、「やればできる」という自己肯定感を高める支援のあり方を工夫する。
- ・生徒の気質の変化等を見極め柔軟な指導を行っていく。
- ・生徒が抱える問題や悩みに素早く適切に対応するために、他分掌や学校外の専門家との連携を図り、学校全体(チーム)で支援や指導を行う体制の強化を図る。
- ・企業や進学先に必要なコミュニケーション能力や挨拶、マナーなどを、授業や部活動、学校行事や学級活動などで継続的に指導する。
- ・生徒の進路先とのミスマッチを防ぐため、基礎学力の定着や職業意識の醸成を図る。
- ・生徒主体の活動を充実させるため、適切な準備期間を早めに設定し、生徒へ行事計画を早く提示できるようにする。
- ・鷹工展の各クラスの企画内容は、テーマにあった内容・目的を組み込むことで内容の充実につなげる。